
調査の概要

1. 調査の実施

(1) 調査の目的

岡山県内における結婚や妊娠・出産、子育てに関する現状や意識などを収集・分析し、岡山いきいき子どもプラン2025（仮称）の策定の基礎資料とする。また、市町村別に県民意識を見える化することにより、岡山県及び県内市町村が施策の検証等を行うための基礎資料とする。

(2) 調査の構成

本調査は、岡山県民を対象とした第一群から第三群までの3つの調査で構成される。調査の名称は以下のとおりである。

第一群：結婚、出産、子育てに関する県民意識調査

第二群：子育てに関する県民意識調査（子どものいる世帯調査）

第三群：結婚、出産、子育てに関する高校生意識調査

(3) 実施要領

調査の対象、期間、対象数、方法、回収・回答結果等、実施要領を表1にまとめた。

対象数は、第一群及び第三群は市町村別に男女別集計が可能となるよう、また、第二群は市町村別に集計が可能となるよう、下記の統計値等に基づき設定した。

第一群：令和2（2020）年国勢調査における県内市町村の男女・年齢階層別人口に基づき設定した。市町村別に標本サイズを設定し、性、年齢は無作為に抽出した。

第二群：令和2（2020）年国勢調査に基づき県内市町村の「9歳までの子どもがいる世帯数」に基づき設定した。

第三群：完全オンライン調査としたことから、調査期間中の2023年11月における、岡山県立高等学校（全日制課程・定時制課程）の2年生及び3年生（中等教育学校の5年生及び6年生を含む）の全生徒を対象にした。

表1 結婚、出産、子育てに関する県民意識調査の実施要領

項目	第一群調査	第二群調査	第三群調査
①調査名称	結婚、出産、子育てに関する県民意識調査	子育てに関する県民意識調査 (子どものいる世帯調査)	結婚、出産、子育てに関する高校生意識調査
②対象	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年8月時点で20歳から49歳の岡山県内在住者 ・市町村の住民基本台帳から無作為に抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から小学校3年生までの子どもと同居する子育て世帯の親等 ・市町村ごとに保育園、小学校等の立地バランスを考慮して保育園、学校等を抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校（全日制課程・定時制課程）の2年生及び3年生（中等教育学校の5年生及び6年生を含む）の全生徒
③調査期間	2023年9月30日～ 2023年10月24日	2023年10月20日～ 2023年11月13日	2023年11月6日～ 2023年11月27日
④対象数	56,837人	17,479世帯	18,463人
⑤調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便送付 ・郵便回収、オンライン回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・学校等による直接配付 ・郵便回収、オンライン回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校を通じた調査依頼書（調査サイトへのリンクを掲載）の高校生への配付 ・オンライン回答
⑥回収・回答結果	回収数 14,333人 回収率 25.2%	回収数 6,425世帯 回収率 36.8%	回答数 9,706人 回答率 52.6%
⑦主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚希望、結婚の見通し ・結婚する理由、メリット ・結婚しない理由、デメリット ・理想の結婚年齢、その理由 ・理想の年齢で結婚できない理由 ・結婚のための所得のゆとり ・希望する子ども数 ・子どもが欲しくない理由 ・現実に持てると思う子ども数 ・希望する子ども数が持てない理由 ・交際状況、出会いの機会 ・出会いの機会がない理由 ・男女の役割分担意識 ・ワーク・ライフ・バランス ・家事、育児への関わり方 ・女性のライフコースの理想 ・働く女性のキャリアアップの理想 ・職場の結婚、出産、子育てに対する配慮 ・地域社会との関わり ・結婚時の住居地選択の評価 ・結婚観、子ども観、自己意識等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての幸福感、楽しさ ・子育ての負担感、不安感 ・子どもを強く叱ったり、つらくあったりすること ・希望する子ども数 ・現実に持てると思う子ども数 ・希望する子ども数が持てない理由 ・第1子出生の年齢の理想と現実の年齢に影響したこと ・第1子（第2子）の子育て経験の第2子（第3子）の希望への影響とその理由 ・子育ての経済的負担 ・子どもの教育の考え方 ・子育てへの自分と配偶者の関わり方 ・仕事からの帰宅時間 ・育児休業の取得状況 ・子どもが理由になった転居と転居先選択の評価 ・親との同居、近居 ・子どもの預かりサービスの利用状況 ・地域社会との関わり ・子育て支援サービスの利用 ・ひとり親の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚希望、結婚の見通し ・結婚する理由、メリット ・結婚しない理由、デメリット ・理想の結婚年齢、その理由 ・理想の年齢で結婚できない理由 ・希望する子ども数 ・子どもが欲しくない理由 ・現実に持てると思う子ども数 ・希望する子ども数が持てない理由 ・男女の出会いの機会 ・男女の役割分担意識 ・進学、就業、結婚における地域選択とその理由 ・就職に当たっての情報収集 ・地域社会との関わり ・結婚観、子ども観、自己意識等 ・女性のライフコースの理想 ・妊娠、出産に関わる医学的知見の認知 ・女性の妊孕性とライフコースの優先度

2. 市町村別の回収結果

各調査の市町村別の調査対象数及び回収結果を表2に示した。

表2 市町村別の調査対象数及び回収結果

(人、世帯、%)

市町村	第一群			第二群			第三群		
	発送数	回収数	回収率	発送数	回収数	回収率	発送数	回答数	回答率
岡山市	2,560	861	33.6	1,037	595	57.4	6,801	3,207	47.2
倉敷市	2,553	711	27.8	1,028	492	47.9	4,600	2,456	53.4
津山市	2,507	648	25.8	929	349	37.6	1,190	608	51.1
玉野市	2,453	624	25.4	843	336	39.9	458	306	66.8
笠岡市	2,423	640	26.4	798	299	37.5	395	187	47.3
井原市	2,397	653	27.2	780	297	38.1	400	167	41.8
総社市	2,487	742	29.8	912	464	50.9	520	473	91.0
高梁市	2,337	573	24.5	684	217	31.7	320	228	71.3
新見市	2,313	584	25.2	704	243	34.5	357	257	72.0
備前市	2,363	524	22.2	732	241	32.9	273	172	63.0
瀬戸内市	2,400	675	28.1	796	276	34.7	361	206	57.1
赤磐市	2,420	597	24.7	850	336	39.5	463	256	55.3
真庭市	2,400	561	23.4	818	332	40.6	550	324	58.9
美作市	2,303	537	23.3	698	200	28.7	292	138	47.3
浅口市	2,377	664	27.9	770	252	32.7	335	125	37.3
和気町	2,123	484	22.8	434	123	28.3	137	73	53.3
早島町	2,180	527	24.2	594	235	39.6	113	49	43.4
里庄町	2,113	535	25.3	418	144	34.4	125	51	40.8
矢掛町	2,133	534	25.0	578	197	34.1	146	89	61.0
新庄村	192	82	42.7	44	23	52.3	9	3	33.3
鏡野町	2,083	443	21.3	673	159	23.6	119	57	47.9
勝央町	2,107	464	22.0	745	200	26.8	132	67	50.8
奈義町	1,714	378	22.1	364	84	23.1	47	22	46.8
西粟倉村	392	108	27.6	71	22	31.0	17	4	23.5
久米南町	1,017	341	33.5	180	64	35.6	48	31	64.6
美咲町	2,083	431	20.7	616	146	23.7	149	82	55.0
吉備中央町	2,407	412	17.1	383	99	25.8	106	68	64.2
合計	56,837	14,333	25.2	17,479	6,425	36.8	18,463	9,706	52.6

3. 集計・分析の対象数

本調査では、市町村別に、統計的に有意な集計・分析を行うことができるよう、市町村ごとに調査の対象数を決定した。

そこで、全県の分析では、次ページのとおり、令和2（2020）年国勢調査から市町村別・男女別・年齢階層別等の割合を用いて「ウエイト」を算出し、回答者の回答に対して住居地である市町村・性別・年齢階層等によって重みづけを行った。

第一群：20-49歳人口の市町村別・男女別・年齢階層（20歳代・30歳代・40歳代）別の割合

第二群：0-9歳の子どもがいる世帯の市町村別の割合

第三群：16-18歳人口の市町村別・男女別の割合

各調査において、上の回答が不詳である者は集計・分析の対象から除外した。その結果、集計・分析を行った対象数（標本サイズ）は、表3に示すとおりとなった。

なお、第三群においては、新庄村と西栗倉村は在住している高校生数が少なく、十分な標本サイズが得られなかったことから、市町村別の集計・分析の対象としていない。

表3 集計・分析の対象数（標本サイズ）

（人、世帯）

市町村	第一群			第二群	第三群		
	合計	男性	女性		合計	男子	女子
岡山市	840	312	528	595	3,207	1,546	1,661
倉敷市	699	257	442	492	2,456	1,158	1,298
津山市	639	210	429	349	608	297	311
玉野市	615	238	377	336	306	161	145
笠岡市	631	211	420	299	187	103	84
井原市	638	243	395	297	167	76	91
総社市	733	233	500	464	473	237	236
高梁市	569	223	346	217	228	112	116
新見市	577	235	342	243	257	129	128
備前市	514	177	337	241	172	94	78
瀬戸内市	666	252	414	276	206	92	114
赤磐市	592	200	392	336	256	142	114
真庭市	552	204	348	332	324	148	176
美作市	528	209	319	200	138	69	69
浅口市	659	242	417	252	125	64	61
和気町	474	200	274	123	73	40	33
早島町	522	186	336	235	49	22	27
里庄町	530	211	319	144	51	26	25
矢掛町	524	220	304	197	89	40	49
新庄村	82	39	43	23	3	-	3
鏡野町	439	158	281	159	57	23	34
勝央町	459	176	283	200	67	32	35
奈義町	375	183	192	84	22	10	12
西栗倉村	108	41	67	22	4	3	1
久米南町	340	145	195	64	31	13	18
美咲町	425	166	259	146	82	45	37
吉備中央町	395	178	217	99	68	38	30
合計	14,125	5,349	8,776	6,425	9,706	4,720	4,986

4. 調査票の設計方法

本報告書の第IV章では、調査対象の結婚希望とその実現予想、希望する子ども数とその実現予想等に対して影響を及ぼす、回答者自身の要因や回答者を取り巻く環境要因を抽出する。その要因から対処すべき問題点が明らかになり、施策に対する示唆が得られるためである。

このため、調査票設計に先立って、結婚希望とその実現予想、希望する子ども数とその実現予想等に影響を及ぼす「要因の分野（ブロック）」を設定した。また、既存の学術的研究の成果、行政等の調査結果、また、アドバイザーを含む関係者の議論に基づき、ブロック間・ブロック内において、質問項目間の因果関係を表す「ロジック・フロー」を検討し、設定を行った。

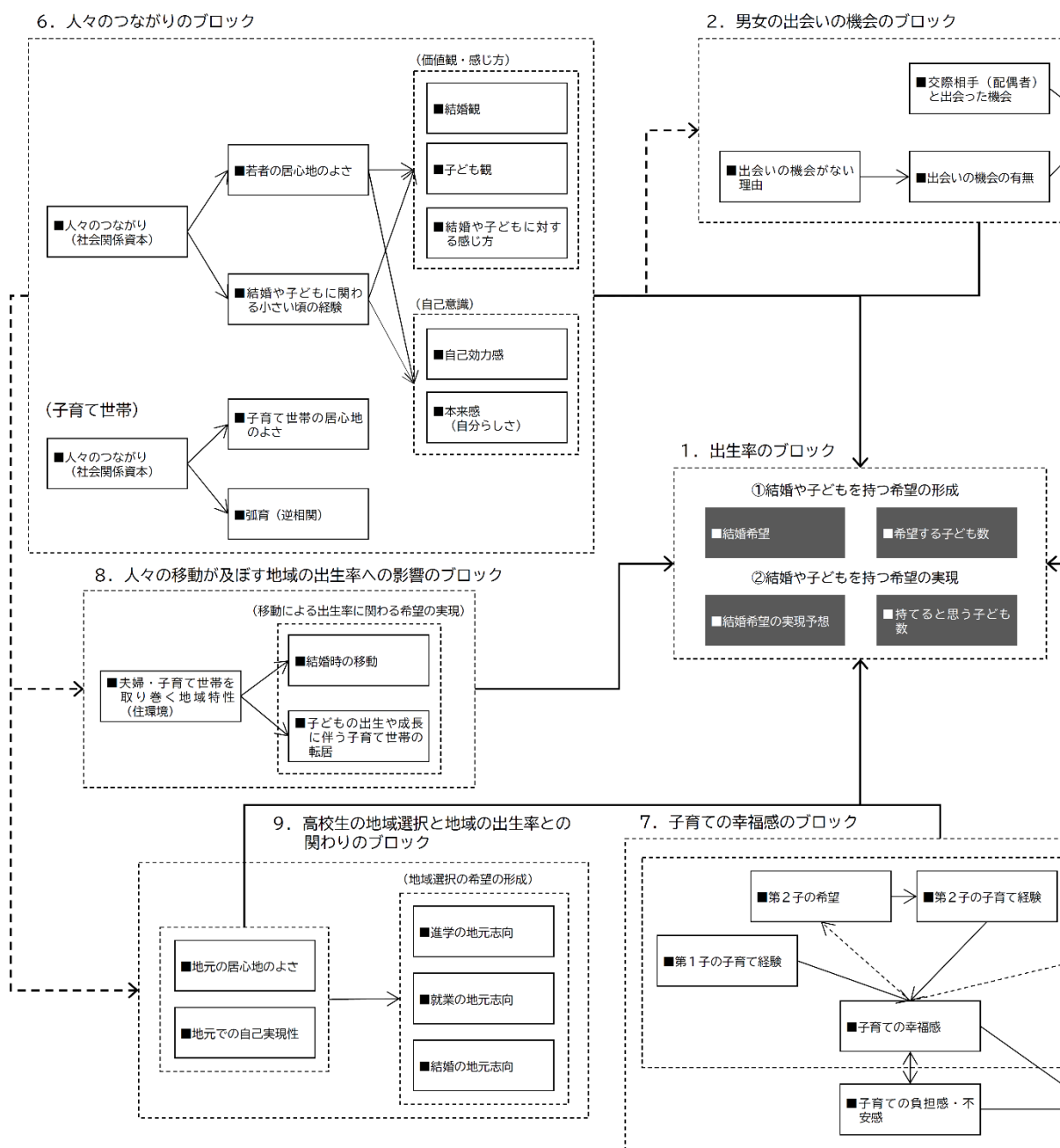
図1が調査全体のロジック・フローである。3つの調査の質問項目は、基本的に図1のロジック・フローに沿って設定した。また、各ブロック内の詳細なロジック・フローは、第IV章に表記した。

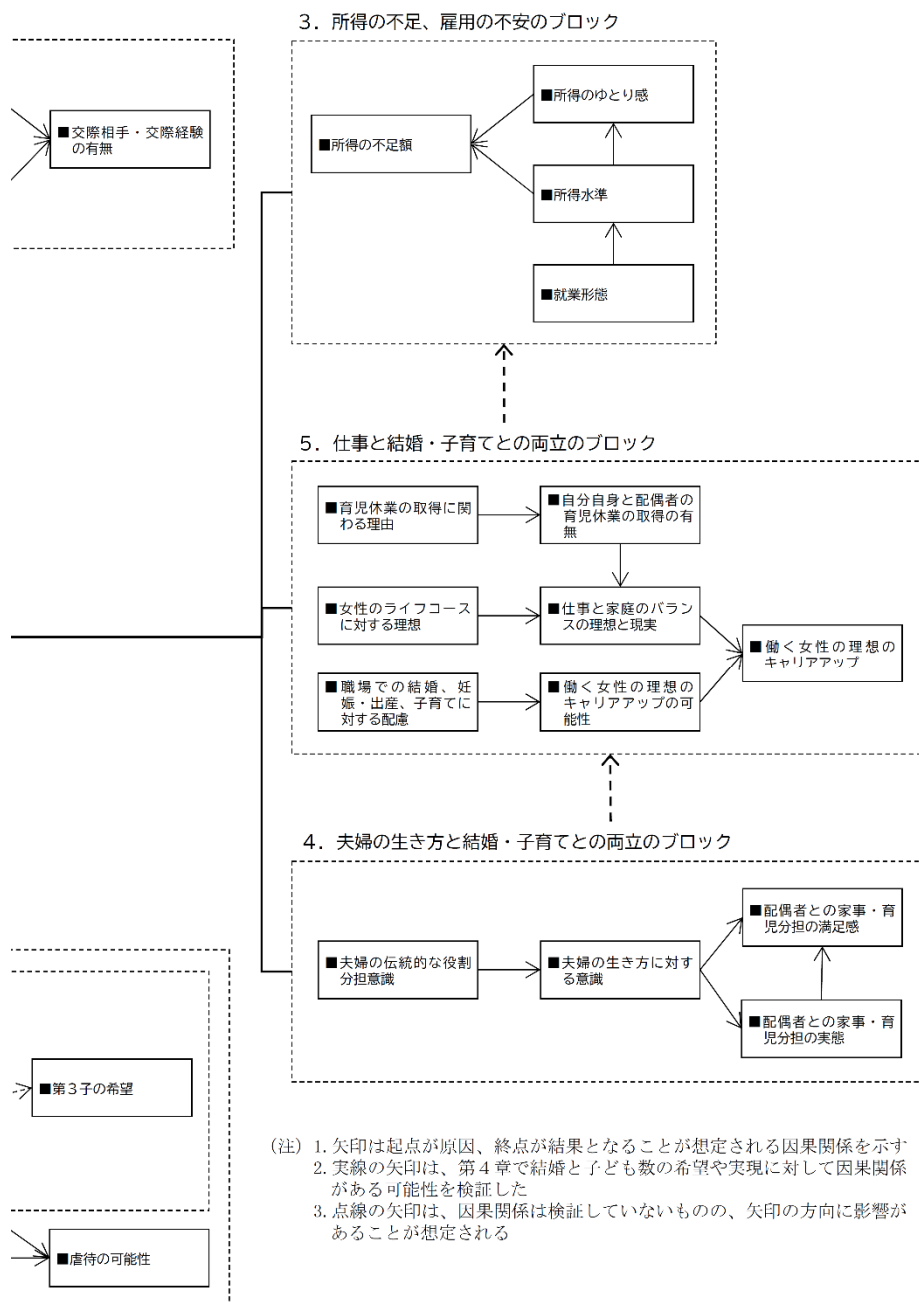
ロジック・フローを作成する利点は、以下のとおりである。

ロジック・フローを作成する利点

- ① ロジック・フローに基づき調査項目を設計することにより、質問間の因果関係が明らかになり、施策形成時にロジック・モデルへの展開が容易になる。インプットからアウトカムまでの道筋が明らかになり、施策の必要性が明確化され、実効ある施策形成が期待できる。また、意識調査の結果は「ファクト」であり、施策形成の際、意識調査の結果を利用することによってEBPMを強化できる。
- ② 調査票設計に当たって、社会的インパクト（例えば、結婚希望や希望する子ども数の実現等がもたらす出生率の上昇）に到達する道筋や質問間の因果関係から、質問の必要性を体系的に整理でき、質問項目の漏れや重複のチェックが容易になる。
- ③ 質問項目の一覧性が高まり、関係者の中でロジックを共有しながら効率的・効果的な調査票設計のための検討が可能になる。

図1 調査全体におけるロジック・フロー





5. 集計・分析の方法

集計・分析に当たっては、単純集計のほか、ロジック・フローに沿った質問間のクロス集計、年齢や子ども数の分布の表示や平均値の算出等を行った。

また、一部のクロス集計では、因果関係がある可能性を示す統計量を表示した。リッカート形式（そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わないなど、選択肢が多段階となった質問形式）の質問では、複数の質問から、「人々のつながり」「自己効力感」「地域の居心地のよさ」といった「概念」を作成し、各回答者にそのスコアを割り当てるといった方法を採用した。

以下に、その概要を示した。

（１）質問項目間の因果関係の分析

ロジック・フローで想定した因果関係に基づき、一部の質問では、クロス集計表の作成による表側・表頭間の関係の有無に関する検定結果（P値）と、表側・表頭の関係の明確さを計測するクラメールの連関係数を算出した。

P値

本報告書で、クロス集計を行った一部のグラフに付記したP値は、サンプル数と、表側項目別の表頭の回答差に基づき、表側と表頭が無関係であることを検定した結果である。P値が十分に小さい（0.05以下）と、統計的に表側項目により表頭の回答に差があるといえることができる。

クラメールの連関係数

クラメールの連関係数はクロス集計表における表側と表頭の相関関係の明確さを示す。0から1の間の数値をとり、1に近いほど相関が明確であり、ゼロに近いほど無相関であることを示す。相関分析における相関係数の絶対値に当たる統計量である。クロス集計表の場合、クラメールの連関係数が0.2～0.3を超えるとグラフで明確な相関が見られるようになる。

（２）回答の点数化と統計分析

本調査では、結婚観や子ども観といった回答者の価値観や感じ方、回答者を取り巻く環境の評価を把握するため、リッカート形式によって関連する複数の質問を行った。

リッカート形式で把握された回答を点数化した後、複数の質問を主成分分析により合成し、価値観や環境評価の概念を表す指標を作成した。

上記で作成された指標のスコアを回答者に割り当てて、他の質問とのクロス集計表による分析や市町村間の比較を実施した。

主成分分析

個々の回答者の回答の傾向に基づき、複数の質問を新しい指標（主成分）にまとめる手法が主成分分析である（合成の分析）。第1主成分は点数化された回答から総合的な傾向を抽出するよう質問をまとめたものであり、第2主成分以降は点数化された回答から対立軸をつくり出すよう質問をまとめた指標である。主成分得点は、各回答者が保有する新しく生成された主成分のスコアである。

複数の質問を合成した場合は、第1主成分を用い、第1主成分の主成分得点を各回答者に割り当てた。

主成分分析により作成した指標を利用したクロス集計

主成分分析により生成された第1主成分を分析軸としてクロス集計を行うときは、標準化された主成分得点を用い、その区分を、平均値（ゼロ）と標準偏差（1）を境にした4カテゴリーとした。

- 弱い（低い） : -1未満
- やや弱い（やや低い） : -1以上0未満
- やや強い（やや高い） : 0以上1未満
- 強い（高い） : 1以上

（3）複数回答の質問におけるバブルチャートの作成

結婚したい理由、結婚するつもりはない理由等、複数の選択肢を選ぶ質問では、その回答に対して主成分分析を実施し、横軸・縦軸に第1主成分から第3主成分の主成分負荷量を測ったバブルチャートを作成した。バブルチャートの見方は以下のとおりである。

バブルチャートの見方

- ① 複数選択の質問について、選んだ選択肢の相関関係に基づき、回答の全体的な傾向や特徴を「見える化」したもの
- ② 多くの人が組み合わせで選んだ選択肢同士が近くに配置される
- ③ 多くの人が選んだ組み合わせに含まれない選択肢が遠くに配置される
- ④ バブル（円）の大きさは回答割合（回答数の多さ）を示す
- ⑤ 統計ソフトウェアが回答の全体的な傾向や特徴を機械的に抽出（主成分分析）したものであり、横軸・縦軸が意味することの解釈は、分析者にゆだねられる
- ⑥ 縦軸・横軸の意味合い、選択肢のまとめり方を解釈しながら、バブル（円）の大きさとあわせて、施策検討に活用することを目的とする

（4）男女別集計

結婚、子どもを持つこと、子育てに関する意識や、社会経済環境から受ける影響は男女で差が大きい。そこで、第一群及び第三群における集計・分析は男女別に行うことを基本とした。

（5）岡山県全体の単純集計の方法

本調査の標本サイズの設定は、市町村別で集計可能であることを目標とした。このため、「集計・分析の対象数」で記述したとおり、全県で集計・分析を行うときは、各調査で設定したウェイトによって、回答者ごとに、その回答に対して重みづけを行った。

（6）過年度調査との比較

施策の目標値等になると考えられる重要な質問は、5年前の2018年調査と比較した。

(7) その他

①不明回答の取り扱い

本報告書の集計・分析では、主にロジック・フローに沿ったクロス集計等を行うため、不明回答の大きさが表側・表頭の関係等に見逃されることがある。そこで、すべての集計・分析において不明回答を除く集計を行った。このため、同じ間でも集計によって標本サイズが異なることがある。

②標本サイズの表記

集計対象となった標本サイズは、表及びグラフにおいてN数や括弧内の数値として表記した。

③単数回答・複数回答の表記

図表の表題に、質問が単数回答であるときは「単数」、複数回答では「複数」と表記した。

④四捨五入の影響

図表では主に回答の割合を示しており、四捨五入のため内訳の計が 100 にならないことがある。

6. アドバイザリー

本調査の考え方、調査票の設計、集計・分析等について、明治大学政治経済学部の鎌田健司専任講師と意見交換を行い、アドバイスを頂いた。ここに心よりお礼を申し上げます。